

日産部品山陰販売 株式会社

●自動車部品の販売／車両販売／自動車修理 など



車の総合的アフターセールス担う プロフェッショナル集団

日産純正品を中心に車の各種部品を山陰各地の整備工場に届けている《日産部品山陰販売株式会社》。全国25社の中で唯一、板金・塗装や整備、販売など部品管理以外の業務も担っている。

45

LEADING COMPANY

日産グループの一員として
部品管理から整備、販売も

1台の車は約3万点の部品から構成されている。多機能を持つスマートフォンなどの部品数が約1500点であること比べても、その多さに改めて驚かされる。しかも、一つでも取り付け方が悪かったり、傷んで十分に機能していなかったりすれば、スムーズな運転に支障が及び、時に人命に関わる事故を引き起こす要因になる可能性もある。3万点の部品は一つ一つに重要な意味があり、それらを確実に組み合わせることで初めて車としての有用性が生まれるのだ。

《日産部品山陰販売株式会社》は、日産純正品を中心に車の各種部品を山陰各地の整備工場などに届けている。全国25社の中で唯一山陰だけ、新車納車前整備や板金・塗装、車検点検・整備、新車中古車販売など部品の販売以外の業務も行っている。「エンドユーザーの豊かなカーライフ実現のため、車の総合的なアフターセールスを行えるのが当社の強み。幅広い経験を積める職場です」と小坂厚夫社長(66)は胸を張る。メーカーが全国的に進めていた部品供給のネットワーク化の流れと、ディーラーの持つ機能を協業化して

効率化を図りたいという地元ディーラーの要望が相まって1977年、前身の《株式会社日産自動車島根総合センター》が設立。のちに他地域と同様の現在の社名となった。

培った技術力で業績好調

自動車業界ではEVシフトが進み、部品数はエンジン車に比べて約1万点減少。コンピューター制御が進化し、整備士に求められる技術も変容しつつある。また、先進運転支援システムの開発が進むことでマクロ的には事故が減少し、板金や塗装の仕事が減るとも言われている。そんな逆風下でありながら、日産部品山陰販売の業績は非常に好調だという。小坂社長は、「当社の技術力が認められてきたからだ」と自負しています。品質はもちろん、約束した納期を確実に守る体制も評価されているようです。」と話す。

類まれな技術力を支えているシステムの一つが、メーカーが展開する充実した教育体制だ。社員は日産グループの一員として、基礎的な自動車知識から販売や物流、カーライフに関する専門的な知識や技術を学ぶことができる。各種マネジメント研修もあり、立場に応じて求められる意識もおのずと高められる。「全国の人とコミュニケーションが取れ、

刺激を受けることができます。当社の社員は仕事の幅が広いので、他社の人間から視野の広さを称されることも多いようです」と小坂社長。「部品の供給に留まらず、自分の仕事がどこにつながるかということを感じられるのは、仕事をやる上で重要であり、強みでもありますね」

小坂社長が赴任した2018年から毎年、全社員と直接話を聞く機会を設け、労働環境や業務の改善を推進。年々猛暑化が進む現状を踏まえ、24年5月には本社の新車整備工場、板金塗装工場など3つの拠点に大型エアコンを導入した。「会社を支えるのは社員です。好調な業績も社員あってこそ。社員への還元ももっと高めていきたい」



フルマラソンを何度も完走し、ジョギングが日課だという小坂厚夫社長。宍道湖沿いのお気に入りのコースの一つだ。

日産部品山陰販売 株式会社

創 業 昭和52 (1977) 年5月25日
代表者 代表取締役社長 小坂 厚夫
社員数 103名 (男78名 女25名)
本 社 島根県松江市東出雲町揖屋3423-1

事業内容

自動車部品の販売、自動車販売、車検整備、事故車修理、車輻回送、損害保険代理店

勤務地(採用エリア)

松江市、出雲市、浜田市、鳥取市、米子市

採用区分

新卒採用 キャリア採用

インターンシップ・キャリア

有 マイナビサイトにて、順次受付。

採用担当者からあなたへ

当社が大切にしているのは働く人たちのつながりです。みんなでサポートし合うので、職場は笑顔であふれています。チームワークを尊重し、職場のメンバーと協調して仕事に取り組める人を求めています。研修制度も整っていて自動車の基礎知識を一から学べますので安心してください。

営業支援課 課長
大島 久幸さん

採用に関するお問い合わせ先

0852-52-5254

公式サイトは
こちら



マイナビは
こちら



日産部品山陰販売を知る



本社を含めた5拠点で幅広い業務を展開しており、異動対応も希望に応じて柔軟に行っている

Q. 勤務地の変更や他部署への異動はありますか？

A. 当社は本社を含め、鳥取から浜田まで山陰5店舗を展開しているほか、業務内容も多岐にわたります。希望があればできるだけ対応するほか、本人の適性を見極めて異動を打診することもあります。整備担当者が「車両販売をやってみたい」と声を上げ、営業に異動したケースもあります。

Q. 資格取得の支援制度はありますか？

A. 整備士などの国家資格に加え、日産には整備や販売、部品など各部門に対応した独自の社内資格があります。いずれの場合も資格取得は会社が全面的にバックアップしています。2020年からは資格レベルに応じた資格手当も支給しています。



日産グループの一員として、資格取得や研修制度などが充実しており、スキルアップしやすい環境だ

Q. 日産部品山陰販売には、どのような仕事がありますか？

A. 全国25社と同様の業務が、部品の入庫作業を担う商品管理です。拠点センターから配送される自動車部品を受け取り、ディーラーや整備工場など注文を受けた顧客に届ける業務です。それに加え山陰販売では歴史的な経緯もあり、新車納車前整備や板金・塗装、車検点検、整備、新車中古車販売など多彩な業務を行っています。自動車の販売以降の幅広いサービスを担っています。



商品管理だけでなく、営業や整備、新車中古車販売、陸送など業務内容は多岐に渡る

Q. 研修制度について教えてください。

A. 社員は日産グループの一員として、職種や階層に応じて、販売や物流、整備、カーライフに関する専門的な知識や技術を学ぶことができます。最新の知識や技術の修得を目指すための実践に即した講座が開かれ、新入社員から店長・マネージャークラスまで多くの社員が、集合研修やオンライン研修でスキルアップに取り組むことができます。移動や宿泊、研修にかかる費用はもちろん全額会社が負担します。

充実カーライフを実現するスタッフ

職場環境の改善を提案し、実現。正確でスピーディーに部品を入庫

約3万点の部品からできている自動車。部品の入庫を担う勝部さんが1日に取り扱うアイテムは400種以上、品数は数千にも及び。「1日中倉庫を走り回るので、毎日軽く1万歩は記録します。体を動かすことが好きなので性に合っています」と笑う。部品番号や収納場所が書かれた出庫票を基に部品を移動。時には同じ部品を数十個出したり、20キロ近くある重量物を運ぶこともあるという。正確でスピーディーな作業が求められる。

「昨年には、研修の一環で職場環境の改善を幹部に提案。スタッフの負担減少のため、重い部品を腰位置にある棚に移動することが実現した。「経験はまだですが、いろいろなことを任せてもらえるのがうれしいです」。生産性向上に力を入れる。



商品管理課
勝部 美玖さん(24)
2021年入社



板金塗装課
高橋 拓也さん(26)
2018年入社



技術や経験、五感をフル稼働して壊れた車を美しく再生する

ディーラー整備士を父に持ち、小さい頃から車いじりが好きだった高橋さん。「整備もいじりが、既存の部品を直して再生する板金は難しいけど面白い」と父親に勧められ、進路を変えた。

修理が決まった車は一旦バラバラに分解し、各部を目視や計測で修理が可能か判断。凹んだ部分はチェーンで引っ張ったり、ハンマーでたたいたりして形を整え、新品に交換したパーツとともに再び組み立てていく。「毎回新たな問題にトライする感じで、作業は容易ではありません。でも、めちゃめちゃに壊れていた車が修理後、街中で走っているのを見た時はうれしくなります」。研修や現場で技術を磨き、昨年は日産の社内資格であるテクニカルスタッフ1級も取得した。今や若手ホープの一人だ。



営業支援課
栗原 紗瑛さん(29)
2018年入社



数字を読み取って現状把握。将来的には会社の羅針盤づくりも

出雲店で5年間、整備工場からの発注や見積もり、問い合わせなどに対応していた栗原さん。昨春の異動で、経営や企画に関わる部署に移った。営業実績の集計や、拠点長ら幹部が集まる定例会議の資料作成を担当。業務を通して会社の経営状況を把握し、将来的には注力する事業の絞り込みや、課題解決の一役を担うことなどが求められる。「今はまだエクセルに数字を打ち込むだけで必死ですが、数字の奥に浮かび上がる会社の全体像を見られるようになれば」

就職活動中、営業と事務の両職種に興味を持ち、どちらにも関われる職場として選んだ。「車に興味があるわけではなかったんです」と苦笑する。会社がキャンペーン中の部品をPRする販促チラシの作成にも挑戦。文章や写真を工夫する力も磨いている。



車輻販売課
島田 卓弥さん(38)
2018年入社



スキルアップ狙って転職。板金・内装の技術や知識も向上

自身のスキルアップを目指し、町工場から転職。「日産グループの一員なので、研修制度や福利厚生が充実している点に惹かれました。ボーナスがあり、有給が取りやすいのもうれしいですね」。車検や定期点検を主に担当しているが、ディーラー整備士と違って日産以外のメーカー車を扱うことも多く、見たことがない車種に遭遇することも。「車の電動化が進み、従来とは違う知識や技術も求められます。説明書を見ながら四苦八苦しています(苦笑)。大事故につながるかねないボルトの締め忘れなどには特に気を付け、チェックを重ねています」

社内に幅広い業種があることは自身の成長にもつながっている。「気軽に同僚に聞けるので、板金や内装の知識が増え、できることも増えたような気がします」